MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

２０２２．１１．２８　発行元
第 421 号　伊藤　剛
https://mystery-dokuan.com

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

「赤ずきん、ピノキオ拾って死体と出会う。」

１０月に双葉社から青柳碧人の『昔話・童話ミステリ』シリーズの第四弾『赤ずきん、ピノキオ拾って死体と出会う。』が出た。帯に「２５万部突破」とあり、平台に並ぶベストセラー本。その内容は……。

一躍ベストセラーの本に

青柳碧人作品の中では一番の売れ筋本になったような気がする。私は『浜村渚の計算ノート』シリーズが好きなのだが、数学の話が中心になるので、文系の読者は手を出しづらいかもしれない。その点、この『昔話・童話ミステリ』シリーズは万人向けであって、なおかつミステリ読者に限らず幅広い読み手に受け入れられているのだろう。

青柳碧人は読みやすい文章が特徴で、テーマもわかりやすいから、今後も人気本を生み出してくれると期待している。

ピノキオの設定がポイント

本書は赤ずきんが主人公・名探偵役で、旅をしながら出会った事件を解決する設定になっている。でも、秀逸だと思うのは「ピノキオ」を脇役に据えたこと。魔女にバラバラにされたピノキオのからだの各部分を回収していく展開。最初は頭の部分だけでスタート。でも、ピノキオが嘘をつくと鼻が伸びる。赤ずきんが思いついたことを確認する意味でピノキオの口から話をさせると真偽がたちどころに判明する仕組み。推理が正しいかどうかわかるわけである。これは良い思い付き。

伸びたピノキオの鼻は「嘘を言いました。反省しています。」と言えば元に戻るので非常に便利。伸びる鼻を攻撃に使ったりと更に工夫もされている。

『白雪姫』『三匹の子豚』など

第一話は『ピノキオ』で幕開け。第二話は『白雪姫』。毒リンゴを食べさせる話。第三話は『ハーメルンの笛吹男』。単純な童話ではなく、敵味方が入り乱れた流れに持っていくのが青柳流。

幕間を含めて第四話の『三匹の子豚』へ。これは密室殺人事件だ。わらの家、木造の家、レンガの家。襲ってくるのは最初は狼だけれども…。それから百年後の魔女と赤ずきんとの知恵比べ。

密室の中でナイフで刺されて亡くなった長男の子豚に使われたトリックは…。「これは新しい着想かもしれない」などと思いながら。このような本格ミステリっぽい要素が入っているところが青柳碧人の良いところ。

物語の設定の中で作られるルール・約束事を上手に論理の中に取り入れている。「そういえばそうだよなぁ…」と納得させてしまう。魔女も下手なことは言えないよね。この雰囲気で行くと、赤ずきんの旅はまだ続きそうだから続編がありそう。楽しみである。

このシリーズで青柳碧人の作品を読み始めた人は是非他シリーズにも手を広げてほしい。

青柳碧人『童話ミステリ』シリーズ

1．むかしむかしあるところに、死体がありました。
2．赤ずきん、旅の途中で死体と出会う。
3．むかしむかしあるところに、やっぱり死体がありました。
4．赤ずきん、ピノキオ拾って死体と出会う。

椹野道流『時をかける眼鏡』シリーズ

1．医学生と、王の死の謎
2．新王と謎の暗殺者
3．眼鏡の帰還と姫王子の結婚
4．王の覚悟と女神の狗
5．華燭の典と妖精の涙
6．王の決意と家臣の初恋
7．兄弟と運命の杯
8．魔術師の金言と眼鏡の決意
9．宰相殿下と学びの家

椹野道流『時をかける眼鏡　宰相殿下と学びの家』

９月に集英社オレンジ文庫から出た本。シリーズの９冊目に当たる。８冊目が出てから本書が出るまで間があいた。３年ぶりの最新刊ということになる。現代の医学生・西條遊馬がタイムスリップして中世？？のマーキス島に移動して、鷹匠・フォークナーや国王・ロデリックなどと協力して国作りに邁進する物語。

マーキス島では疫病が治まった後、国力を上げるための方策が検討されることに。国王・ロデリックや宰相・フランシスは国民の学力を上げるために各地に学校を作る案を提示するが、議会の年寄りたちは庶民が知恵をつけることに消極的。黙って言うことをきかせる今までのやり方に固執する。そこで、国王は遊馬（眼鏡）とフォークナーにヨビルトン集落での実践を命じた。二人は現地での教師役となる予定のハンナ先生とともに出発する。しかし、現地に着いてみると……。ハンナ先生の過去が本書の中心的な位置を占める。

本シリーズは、遊馬（眼鏡）の法医学の知識が謎解きに結びつく展開でスタートしたのだが、だんだんミステリとしての味付けは薄くなり、キャラクター文芸の面が強くなっている。登場人物が絞り込まれ、限られた人間関係の中で各人の性格や思いが追求されている。椹野作品は安心して読めるところが有難い。